

2016 年 Elective Clerkship 報告書

The University of Sydney

M3 Female

2016 年 1 月 4 日から 1 月 15 日の 2 週間、The University of Sydney の Exchange Clerkship Program で、Royal North Shore Hospital の Department of Obstetrics and Gynecology にて、実習させていただきました。

① 実習開始まで

今回の Elective Clerkship では、英語圏での医療現場や医療教育を体験してみたいという思いで、シドニー大学とハーバード大学に応募させて頂きました。出産・育児で長期間休学しており、家庭の事情もあり、国際交流室の面接を受ける自信も、単身で海外に数か月行く見通しも、5月頃まで全くなかったのですが、「ハーバード大学に行ける可能性があるなら、挑戦すればいいよ。応援するよ。」と、主人に背中を押してもらい、面接を受けることにしました。

ハーバード大学では必ずしも希望診療科に行ける訳ではなく、3か月のうち一度は、特に興味のある産婦人科を実習したかったため、診療科を指定して申し込めるシドニー大学に1月の3週間申し込みました。

シドニー大学のプログラムにはいくつか病院がありますが、産婦人科の受け入れが HP 上で明らかだった Royal North Shore Hospital に申し込むことにしました。Royal North Shore Hospital は6月の初めから HP 上で希望診療科の空き枠を確認して、個人で書類を揃えて応募することが可能です。国際交流室の面接が終わってから、国際交流室を通して応募するつもりだったのですが、6月1日から産婦人科の空き枠が埋まって行き、最低実習期間の3週間をまとめて取れるのが1/4-22のみになってしまったので、面接を待たずに個人で書類を揃えて応募しました。その後、国際交流室から推薦をいただき、授業料免除プログラムの手続きに切り替えて頂くことが出来ました。

実習前の準備としては、推薦をいただいた後は、しばらく TOEFL に集中しました。5月末に初めて受けた TOEFL で 92 点だったので、シドニー大学の応募に必要な 88 点はクリアしていたのですが、ハーバード大学に必要な 100 点までは程遠かったので、必死で準備しました。TOEFL テキストの付属 CD や英語音楽を聞き、日本語のテレビや新聞は見ないようにしました。Skype でアメリカ人の先生に英会話を習うというサイトを見つけ、TOEFL のスピーキング対策を数回しました。集中して対策したのが良かったのか、幸い、6月の終

わりに受けた 2 回目の TOEFL で 101 点を取ることが出来ました。

その後は、USMLE step1 の問題集を解いてみましたが、あまり進まず、12 月になってから、First aid の Obstetrics and Gynecology や Ward を読みました。もともと続けていたアメリカ TV ドラマ鑑賞は、TOEFL 対策後は字幕なしで楽しめるようになったので、趣味として毎日見ていました。

② シドニーにて

シドニーでは、オーストラリア都市部での、産科領域、生殖領域、婦人科良性・悪性腫瘍領域における医療の実践を学ぶ事、及び、日本とオーストラリアでの医療の実践、患者・文化背景の違いを学ぶ事を目的としていました。

シドニー大学関連病院である Royal North Shore Hospital の産婦人科は、年間 2000 件の分娩、毎日 3-4 件の予定帝王切開と、事前に期待していたよりも産科に関して充実した実習でした。一方、婦人科に関しては、オーストラリアが 1 月は Christmas Holiday シーズンであることから、手術数は通常よりはかなり少なくなっていたものの、2 週間の滞在中に、8 件の手術を見学・手洗い参加することが出来ました。

初日の午前中に、海外実習医学生担当者の方から、オリエンテーション、病院の案内をしていただき、その後各科に分かれての実習が始まりました。産婦人科の部長の先生からは、「シドニーは Christmas Holiday だから、あんまり病院にいないで海に行って楽しむといいよ！いくらでも休んでいいよ！」と笑顔で言っていたのですが、子供を日本において実習に来ているので、可能な限り充実した実習をしたい旨を伝え、予定を組んでもらいました。

産婦人科では、毎朝 7:30 より朝カンファレンスに参加しました。前日からその日の朝にかけての病棟の状況、入院妊婦の分娩進行状況、手術の予定、問題症例の検討などが話し合われていました。その後、日によって、産科病棟にて帝王切開、自然分娩、ANC(Antenatal Clinic: 妊婦外来)、SOC(Special Obstetric Clinic: 特殊妊婦外来)、MFM(Maternal Fetal Medicine: 母体・胎児異常専門チーム)、婦人科病棟にて回診、手術に参加しました。

1 週目は主に帝王切開を含む手術の見学と、外来を中心に実習しました。ANC では、妊婦健診において、血圧測定、胎児触診による胎児の体位の予測・児頭下降度の測定を数多く実践させてもらいました。日本での実習を通して、健診では超音波で体位や児頭下降度を測定するものだと思っていたのですが、オーストラリアでは超音波は用いず触診で行うという事で、先生と共に互いの国の医療実践の違いに驚きました。

SOC では、妊娠糖尿病などの合併症のある妊婦健診を見ました。ここでも、血圧測定、

妊婦腹囲測定、胎児心音をドップラーで確認など、多くの経験をすることが出来ました。

2週目は、手術に第2助手で入れてもらえるようになり、帝王切開10件、腹式子宮全摘・卵巣卵管切除・大網切除術にて、拘引き・吸引・糸切りを行いました。1日中先生2人と私の、合わせて3人で産科病棟の帝王切開をすべて担当したり、長時間の婦人科オペをしていると、不思議な事にチーム意識が芽生えてきて、言語の壁はありつつも、色々な事を任せてもらえるようになり、最後には、「You will become a good OB/GYN doctor, because you are natural in the theatre. (手術室でいい動きしている、というニュアンスみたいでせう)」と言っただけ、嬉しかったです。

当初は3週間の予定で申し込んでいたのですが、2週目のはじめに、国際交流室の丸山先生から、ハーバード大学での実習のためのVISA取得手続きが、オーストラリア帰国から渡米までの1週間では間に合わない可能性があるというアドバイスをいただき、残念ながら1週間早めに帰国することになりました。

英語圏における産婦人科の医療現場を知り、また将来英語で医療を行うための自信につなげたい、という思いから、今回シドニーでの海外病院実習に参加しました。2週間を通して、どこの国でも、チーム医療が大切であること、そして、言語の壁がありつつも、自分の学んできた医療知識・体験を基に一生懸命頑張れば、その姿から、言語・文化の違いを超えて認めてもらえる事が実感でき、今後の自信につながりました。

英語としては、医療英語や、外来での患者さんとの会話は大丈夫だったのですが、何よりも医師同士の雑談が、聞き取るのが難しかったです。外科系かつ女性医師ばかりだったので、とにかく会話が早く、医療会話と世間話とが混ざり合い、頻繁に飛ぶジョークはなかなか理解に苦しみました。が、皆明るく陽気で、家庭を持ちつつ前向きな女性医師の方が多く、人生の励みになりました。

この度は、東大の先生方、国際交流室の皆様にご尽力いただき、シドニー大学での海外病院実習にご推薦いただき、また、東大海外派遣事業奨学金もいただくことが出来、素晴らしい体験が出来ました。どうもありがとうございました。

